

# 1. 忍者がうまれたまち名張



## 1. 忍者のさと 赤目四十八滝

名張はむかしから「隠」れるという字をあてて「なばり」とよばれていました。忍者が「しゅぎょう」していたことから、「忍者のさと」ともつたえられています。

とくに赤目四十八滝は、むかしから「修験道」という「しゅぎょう」をする場しよとしてゆう名でした。百地三太夫をだいひょうとする伊賀忍者たちは、ここで山をかけのぼったり、谷をこえたり、石の上や滝で気もちをおちつかせたりして、体や心をきたえました。

忍者はふだん木を切ったり、田んぼやはたけをたがやしたりしてくらしていましたが、たたかいにそなえて、じょうほうをあつめるひみつのしごとをしたといわれています。



つなをわたるしゅぎょう

ひみつのしごとですから、ひとりのときも自分のいのちをまもるためのくねんをしたのです。滝で気もちをしゅう中させて、ひとりぼっちのこわさをりこえる強さをみにつけたり、なかまとれんらくし合うために文字を学んだりしました。

忍者は、自分のいのちをまもることや、なかまのことをとても大切にしていたのです。



高いへいをのりこえるしゅぎょう



外国からのおきやくさま

さい近では、赤目四十八滝のふもとに忍者しゅぎょうを体験できる「忍者の森」がオープンしました。休日には、家ぞくや友だちと忍者のような「しゅぎょう」をしようというひとがおお人が大ぜいやってきます。

にんじゃ もり  
忍者の森

こ ども や 外 国 の 人 も 忍 者 し ゅ ぎ ょう 体 け ん に 来 て い ま す 。

とびらがひっくりかえるしかけ  
「どんでんがえし」

つなをつかってかべを  
のぼるしゅぎょう



みず うす  
水の上をあるく「水ぐも」

しゅりけん

2. にんじゃ た  
忍者の食べもの

にんじゃ  
忍者はしごと中にどんな食べ  
ものを食べていたのでしょうか。

な ば り ふ る  
名張に古くからあるおかし  
の「かたやき」は、もちほこび  
しやすく、くさりにくいことか  
ら、忍者が考えたものとい  
われています。



かたやき

「かたやき」は、小むぎことさとうでねりあげた生地をかたくやきあげたおかしです。一まいずつ時間をかけて弱火でじっくりとやいていきます。そのために、「日本一かたいせんべい」として知られ、おみやげとしてもよろこばれています。

「かたやき」を作るおみせの人は、同じような大きさにきれいにやきあげるために、とてもくろうするそうです。

「かたやき」はかたいけれど、あまくてとてもおいしいです。



「かたやき」を作っているところ

やってみましょう

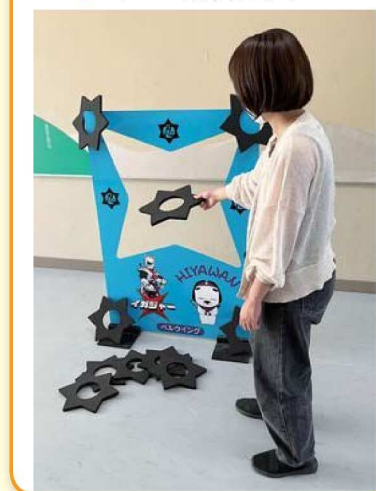
にんじゃ  
～ 忍者になってうごきをれんしゅうしてみましよう～

- りょう手に力を入れて広げ、ぴたっとかっこよく止まる
- 忍者走り（音を立てないですばやく走る）
- 高くジャンプ
- さっとしゃがむ
- しずかに目をとじてすわり、しんこきゅうする



にんじゃ うた  
忍者の歌や  
たい  
体そうもあるよ

学校にある手裏輪も  
やってみよう。



【→P28】